

写真展で戦禍の悲惨を伝える

「渋谷原爆写真展」の30周年にかけの思い



【渋谷原爆写真展 実行委員会代表委員 三橋 勝郎】

渋谷原爆写真展の30周年に当たって、東京土建渋谷支部、なかでも、女性会・書記局の皆さんに大きな役割を果たしていただき、今も果たして

戦争の悲惨を伝えよう

2019年 平和特集



30回記念「特別展示」鉄の造形作家＝武田美通氏の作品「戦死者たちからのメッセージ」

第1回から30回までのポスターを掲示 渋谷支部が、開催の重要な役割を果たしてきました

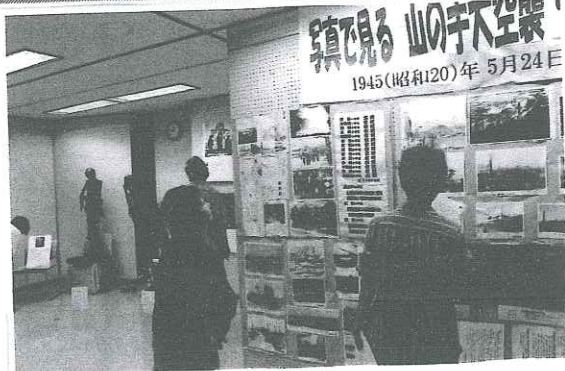
上原社会教育館での写真展の開催と今日までの継続には、それまでの

年を前に、署名と被爆の実相を伝える章の根の「原爆写真展」の重要性が改めて呼びかけられました。そこで、翌1990年に渋谷原水協として、幡ヶ谷社教館で原爆写真展を開催。同時に、私の活動地域（上原・西原地域）の8団体に呼びかけ、第1回原爆写真展を開催しました。この年の10月、私は日本原水協の被爆50周年・国連要請代表団の1人として、ニューヨークの国連本部に50万通の署名を届ける行動に、渋谷の代表として参加しました。



毎回「被爆者の証言」を聞くことができました 今回も小学生や年配者が真剣に聞いていました

「上原・西原地域での平和盆おどり会場での原爆写真展」「核兵器廃絶署名の上高署名推進連総会」「西原皇空映画会での平和の映画上映」等の取り組みが土台になっていまして、今では区内全域の40を超える団体・事業所等が多くなっています。



東京土建渋谷支部の機関紙「けんちく」に掲載された三橋勝郎代表委員の30周年にあたっての一文